

## 心地良いインプットに用心する

- ▶ 心地良いインプットというのは「共感できる」「賛成できる」インプットということである。
- ▶ 「共感できる」「賛成できる」インプットばかり積み重ねているということは、同質性の高い意見や論考ばかりに触れていることになる。こういった知識を積み重ねると知的ストックが極端にかたよって独善に陥る可能性がある。
- ▶ 心理学者のアーヴィング・ジャニスは、同質性の高い人たちが集まると、意思決定の質が著しく低下する傾向があると指摘する。
- ▶ また、多くの組織論の研究が、多様な意見のぶつかり合いによる認知的な不協和が質の高い意思決定につながることを示している。これは集団だけでなく個人の知的ストックにおいても同様といえる。
- ▶ 肯定と否定が、より高い次元では同じものだと指摘したのはジグムント・フロイトだった。強い肯定＝愛情は、強い否定＝憎悪と紙一重の関係であり、双方とも心理学的には転移が発生している状態として整理できる。
- ▶ この状態の反対は「無関心」、つまり転移の解除ということになる。本を読んでいて強い反感や嫌悪感を覚えるというとき、その情報は私たちの中にある何かと共鳴している。
- ▶ それは自分にとって一番大事なものが蹂躪されたと感じるからである。怒りというネガティブな感情を反射板にして、自分が一番大事にしているものに耳を澄ませる。強い反感や嫌悪感を覚えるときは、それをメモしておく。後でいろいろ気づきにつながることもある。